

令和6年9月6日

# 南の風 517

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

久しぶりの通常号です。鈴木氏の「なんのためにスポーツをしているのか」ということについてです。

試合に出られない選手は「自分は一生懸命練習しているのだから、もっと試合に使ってほしい」と思うでしょう。スポーツ選手にとって、これは当然の欲求です。練習したことを試合で発揮できなければ、苦しい練習を頑張ろうというモチベーションは保てません。しかしそういう選手にはもう一度バスケットボールをやることの原点や「チームになんのために入ったのか」を問い直してみてください。

スポーツチームに入ったのは試合に出ることだけが目的だったのではないはずです。もっと大局的な視点で見ると、スポーツの本質的な目的は人生を豊かにすることです。たとえ全国大会で優勝したメンバーだったとしても、その後の人生を前向きに生きられなければ残念としか言えません。バスケットボールは人生の中のほんの一部分なのです。

試合に出さえすれば人間として何も成長しなくても良いというのではスポーツの根源的な意義を失ってしまいます。試合に出られないからといって人間的な成長の機会を失うことはありません。むしろ前向きに考えて、その状況をどのように打開していくかを考えることができれば成長につながることもあるのです。

特に子どもの両親は、最大の応援者であるがゆえに我が子が試合に出ることが目標になってしまいがちです。子どもがスポーツをやる意味をもう一度考え直してみてください。子どもが「試合に出られない」と悩んでいるのなら、それを成長の機会だと捉えるように導くことが重要です。試合に出ることがすべてというような価値観を子どもと共有してしまえば、「あなたが」という価値観を助長したり、欠乏マインドに陥りやすい教育をしてしまっているかもしれないのです。

目的意識を持つことの重要性を話してきましたが、練習メニューの目的を考えるというような側面だけでなく、もっと大きな枠組みで、スポーツをすることそのものの目的意識を考えることも重要なことです。指導者は選手たちにそれを伝えるのみならず、各ご家庭と一緒に考えていくことも重要なことです。※ただ私は、指導者が選手に試合経験を保障することは大前提だと思っています。

次です。鈴木氏が言う「大事なことを優先できる選手に育てる」についてです。

目的意識を持って、自立した行動がとれる選手に育てば、大事なことを優先することができるようになります。うまくなるのは自分次第だと考えられれば、コートで関係のない話をしたり、練習と練習の間をダラダラと移動したりという無駄な時間をなくそうとするはずですが、また練習には常に準備を整えて取り組むようになります。

物事は縦軸に「大事なこと」と「大事ではないこと」、横軸に「緊急なこと」と「緊急ではないこと」として4つに分類できます。「緊急で大事なこと」とは、例えばチームの練習です。「緊急ではない大事なこと」はバスケットボールの自主練習です。自主練習はチーム練習とは違って時間が決まっていないため緊急にはなりません。

続きは次号にします。